

# 高等学校シラバスの作成

## 1 シラバスとは何か？

シラバスって何？

シラバスとは、各学校の教育活動に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等が記載されます。

主体的な学びを促すシラバス

学習者にとって、シラバスは履修科目を選択する際の重要な資料であるとともに、「学びのナビゲーター」として、学習者を主体的な学びに導くものでもあります。

開かれた学校づくりに役立つシラバス

シラバスは、各科目の詳細な授業計画として学習者が利用するだけでなく、教員相互の授業内容の調整、さらには家庭や地域社会への情報提示方法の一つとして、開かれた学校づくりに活用することができます。

## 2 シラバスの語源は？

英語のシラバス(syllabus)は、ギリシャ語のsittuba、すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」、または「標題紙」という意味の言葉を語源とします。

シラバス(syllabus)は単数形の英単語で、和訳する場合は「教授(講義)要目」とするのが一般的です。

シラバス(syllabus)の複数形はシラバイ(syllabi)です。こちらを日本語で表すと、「教授(講義)要目集」になります。

各学校が作成するシラバスの冊子は、複数のシラバスが掲載されるのが普通ですから、本来ならばシラバイ(syllabi)に当たるものといえます。

## 3 注目される理由は？

学習意欲を高めます

シラバスは、学習者が計画的かつ主体的に学んでいくための重要な情報であり、学習意欲の向上に役立ちます。

学校への理解と信頼につながります

学校がシラバスを通して教育内容を公開することは、生徒・保護者や地域社会からの、理解と信頼を得ることにつながります。

わかりやすい説明に役立ちます

シラバスの中に教育目標を明示することで、各学校の「生きる力」の育成に向けた取組を、総合的に、分かりやすく説明することができます。

積極的な情報提供になります

「高等学校設置基準」の一部改正(平成14年4月1日施行)により、各高校には、自己点検・自己評価結果の公表に努めることや、積極的な情報提供を行うことが求められています。シラバスを公開することは、各高校にとって、有効な情報提供の一つです。

学校改善に生かす指標となります

シラバスは、各高校が計画的に教育活動を推進するための、一つの指標です。シラバスを評価し、改善することは、学校改善の手がかりになります。

授業改善の目安になります

教員にとってシラバスは、自らの授業方法や学習評価方法を改善するための重要な判断材料の一つであり、教育活動の質的向上を図る手がかりになるものです。

## 4 記載すべき内容は？

幅広い役割を持つシラバス  
これまでのシラバスは、各高校が設定した教科・科目を解説するものとして作成されてきました。

現在では、学校のグランドデザイン（基本構想図）に基づき、学校経営、学年経営、学級経営、さらには進路指導等も含め、学校教育全体を概括的にPRできるように工夫したものも開発されています。

シラバスの記載項目

シラバスの内容は、次のように「基本的な項目」と「特色ある項目」とに分けることができます。

### 【基本的な項目】

- 1 各教科の科目構成等の全体像……学年や系・系列に応じた設置科目の一覧、科目の設置学年と単位数等の記載
- 2 各教科・各科目の学習到達目標……学習の後に到達すべき学力等についての記載
- 3 指導計画……学習のねらい、学習内容、学習形態、進度等に関する記載
- 4 評価の観点・方法……評価の観点や規準等の具体的な内容の記載

### 【特色ある項目】

- 1 使用教材……教科書、副教材等についての記載
- 2 授業の進め方……学習目標の達成に向けた具体的な授業方法等についての記載
- 3 定期テスト（考査）の情報……定期テスト（考査）の範囲等についての記載
- 4 課題・提出物等の情報……学習活動の中で示される課題や提出物等に関する記載
- 5 学習上の留意点……学習者に対する要望や注意点についての記載
- 6 家庭や地域社会からの学習サポート……家庭や地域社会等との協力内容や協力体制等についての記載
- 7 その他……各学校や地域、生徒の実態等に応じた内容の記載

## 5 作成上のポイント

内容面の工夫をすること

学習指導要領やその解説を参考にして、生徒・保護者及び教員自身が、学習計画や展開等の見通しをもつことができるよう、内容面での工夫を図る必要があります。

視覚面の工夫をすること

生徒の視点に立ち、絵や図表等を適切に挿入するなど、読みやすく、視覚的にとらえやすいように編集します。

学習目標を明らかにすること

生徒の学習に対するモチベーションを高め、持続するよう、学習目標を明らかにします。生徒自身の「生き方」や進路指導と一体化した学びのあり方をイメージしやすいようデザイン化するなどの工夫が求められます。

計画変更の際の対応を示すこと

年間の指導計画等の予定内容に関しては、実施過程での変更があり得ることに触れ、あわせて変更があった場合の対応についても、わかりやすく記載しておきます。

評価・改善の資料となること

シラバスは、授業を評価・改善する際の重要な資料となるとともに、学校教育の新たな方向性を示すものです。作成にあたっては校内組織を工夫するなど、全校的に取り組む必要があります。

## 6 シラバスの書式例

参考として、神奈川県教育庁教育部高校教育課編『平成13年度高等学校教育課程研究集録』（平成14年3月）に掲載された「年間指導計画（シラバス）様式例」を紹介します。

【平成 年度年間指導計画（シラバス）様式例】

学年・科目名・担当 使用教科書・教材	第 学年「 出版	」（科目名）担当 」（書名）	単位（必修・選択）
目標・内容・方法			
1 目標（この授業により生徒に身につけてもらいたい態度や姿勢など、目標とすることを具体的に書く。）			
2 内容（この授業でとりあげる内容を具体的に書く。）			
3 指導計画及び想定配当授業時数（単位数に見合う授業時数で） 〔1学期〕（週、月に配分予定の単元・項目・教材・指導方法，想定配当授業時数も配分する。） 〔2学期〕（週、月に配分予定の単元・項目・教材・指導方法，想定配当授業時数も配分する。） 〔3学期〕（週、月に配分予定の単元・項目・教材・指導方法，想定配当授業時数も配分する。） 想定配当授業時数の合計（単位数に見合う授業時数で）			
4 授業の形態 （ティーム・ティーチング、習熟度別、調べ学習中心、など、授業の形態）			
5 評価の方法等 （評価の観点も）			
6 その他 （留意すべき点など）			

## 7 シラバス作成意義の再確認

### 特色ある高校づくりの推進

特色ある高校づくりが推進される中、各学校には、教育活動の特色や柔軟な学びのシステムに関する積極的な情報提供が求められています。シラバスを公開することは、こうしたニーズに応え、特色ある高校づくりをさらに推進することにつながります。

### 新しい学びを支える柱

「総合的な学習の時間」や教科「情報」の創設，多彩な選択科目や学校設定教科・科目の設置，「学校外における学修」の単位認定など，教育改革の成果や新しい制度を踏まえて作成されたシラバスは，各学校の魅力的な「学び」を支える大きな柱となります。

### 学校の説明責任

各高校に対して，積極的な情報提供が求められている現在，シラバスの中に教育目標や教育内容を明示し，それを公開することは，生徒・保護者に対する説明責任を果たす上で，重要なことです。

### 自ら考え自ら学ぶ力の育成

シラバスの中に学習目標，学習内容，評価方法等を提示することは，学習者にとって，履修科目を選択する際の資料となるだけではなく，高校生活全体を見通した学習計画作成の際にも大きな手がかりとなり，自ら考え主体的に学ぶ力の育成に役立ちます。

## 8 学習計画表の作成と確認

生徒の立場からの学習計画表を作成します  
学校の教育計画や行事等の資料を精査し，入学から卒業までの学習計画表を作成します。入学した生徒の立場に立ち，卒業までの学校生活を見通した上で作成することが必要です。

- 1 各教科の学習（授業）計画
- 2 「総合的な学習の時間」の計画
- 3 特別活動等の計画  
ロングホームルームの計画表  
学校行事の計画表  
進路学習（指導）の計画表

学びのシステムを解説します

次に，学校の学びのしくみをまとめます。生徒の立場に立ち，教育課程表に沿った学びのシステム（流れ）をたどります。

- 1 教育課程の解説  
卒業までの「学び」の構造（科目選択のあり方とその時期等）  
教育課程の特色（履修と修得，「学校外における学修」の成果等）
- 2 進路学習と教科学習，「総合的な学習の時間」の関連等についての解説  
高等学校の教育課程が，教科・科目，特別活動，「総合的な学習の時間」によって編成されること  
上記の三つが相互に補い合い，高校教育の目標を達成することになること  
等

## 9 組織の編成とその役割

シラバス作成組織の編成

シラバス作成の中心となる組織を決める方法には，次の二つが考えられます。

- 1 新たなプロジェクトチームを編成する。
  - 2 既にある校内組織が担当する。
- はじめてシラバスを作成する場合は，1のように，新たなプロジェクトチームを立ち上げた方が，良い結果が生まれやすいと思われます。

シラバス作成組織の役割

シラバスの作成組織の役割には，次の四つが考えられます。

- 1 シラバスの位置づけ（作成目的）のまとめ  
生徒が，シラバスをどのように活用するか，またどのように活用して欲しいのかという，シラバスのコンセプトをまとめます。
- 2 シラバスの内容構成や書式の策定  
シラバスの書式や記載する内容，冊子全体の構成等を，活用する生徒の立場でまとめます。
- 3 スケジュールと業務分担の管理  
シラバス作成の作業計画を策定・管理します。また，作成後の改善についても計画を立てておきます。
- 4 シラバスの研究と改善  
より良いシラバス作りのために，生徒や保護者の声を聞いたり，他校のシラバスを研究したりするなど，改善に向けた取組を行います。

## 10 シラバス作成組織の業務

シラバスの位置づけと活用方法の提示  
シラバス作成組織の業務には、シラバスそのものの作成に加えて、シラバスの作成目的やその活用方法の提示が含まれます。

- 1 シラバスの位置づけ（作成目的）の明確化  
全教職員の共通理解を図りながら、シラバスの位置づけ（作成目的）を明確にしておくことは、後の改善に役立ちます。
- 2 活用の仕方（例示）  
新入生に配布し、高校での学習の全体像を示す。  
履修科目の選択時期に合わせて配布し、各科目の授業内容に関する資料とする。  
シラバスを書込式にして、学習の構築や記録、自己評価のために活用する等。
- 3 他資料との組み合わせ（例示）  
シラバスに「新入生の手引き」の内容を加え、高校生活のガイドとする。  
進路指導（キャリアガイダンス）の内容と合わせ、教育課程の説明や進路学習の際の資料とする。  
各教科・科目の学習内容の紹介に特化した冊子とする、等。

シラバスの内容構成や書式の策定  
シラバスの内容構成は、作成目的に合わせた工夫が必要ですが、次の項目は、どのタイプのシラバスにも記載しておきたい基本的な事項です。

- 1 教育課程表
- 2 教科科目の内容
  - ・ 学習(到達)目標：何を身に付けるために「学ぶ」のか
  - ・ 学習内容：何を通して「学ぶ」のか（使用教材）
  - ・ 学習進度：いつ、どこまで「学ぶ」のか
  - ・ 学習評価：何を以て、どのように評価するのか

### 年間プランの例

シラバス作成の年間プランの例を示します。

- |     |                                 |
|-----|---------------------------------|
| 2月  | ・ シラバス完成                        |
|     | ・ シラバス評価（生徒・保護者の評価）             |
| 3月  | ・ シラバス評価に基づく改善の方向性の明確化 【シラバス配布】 |
| 4月  | ・ シラバス改善 【シラバス活用】               |
| 5月  | ・ シラバス改善                        |
| 6月  | ・ シラバス改善                        |
| 7月  | ・ 次年度入学生用シラバスの作成手順（日程，体裁等）の決定   |
| 8月  |                                 |
| 9月  | ・ シラバス原稿作成                      |
| 10月 | ・ シラバス原稿作成                      |
| 11月 | ・ シラバス原稿作成                      |
| 12月 | ・ シラバス入稿                        |
| 1月  | ・ シラバス校正                        |